

5 避難を考える

とるべき避難行動を考えておきましょう

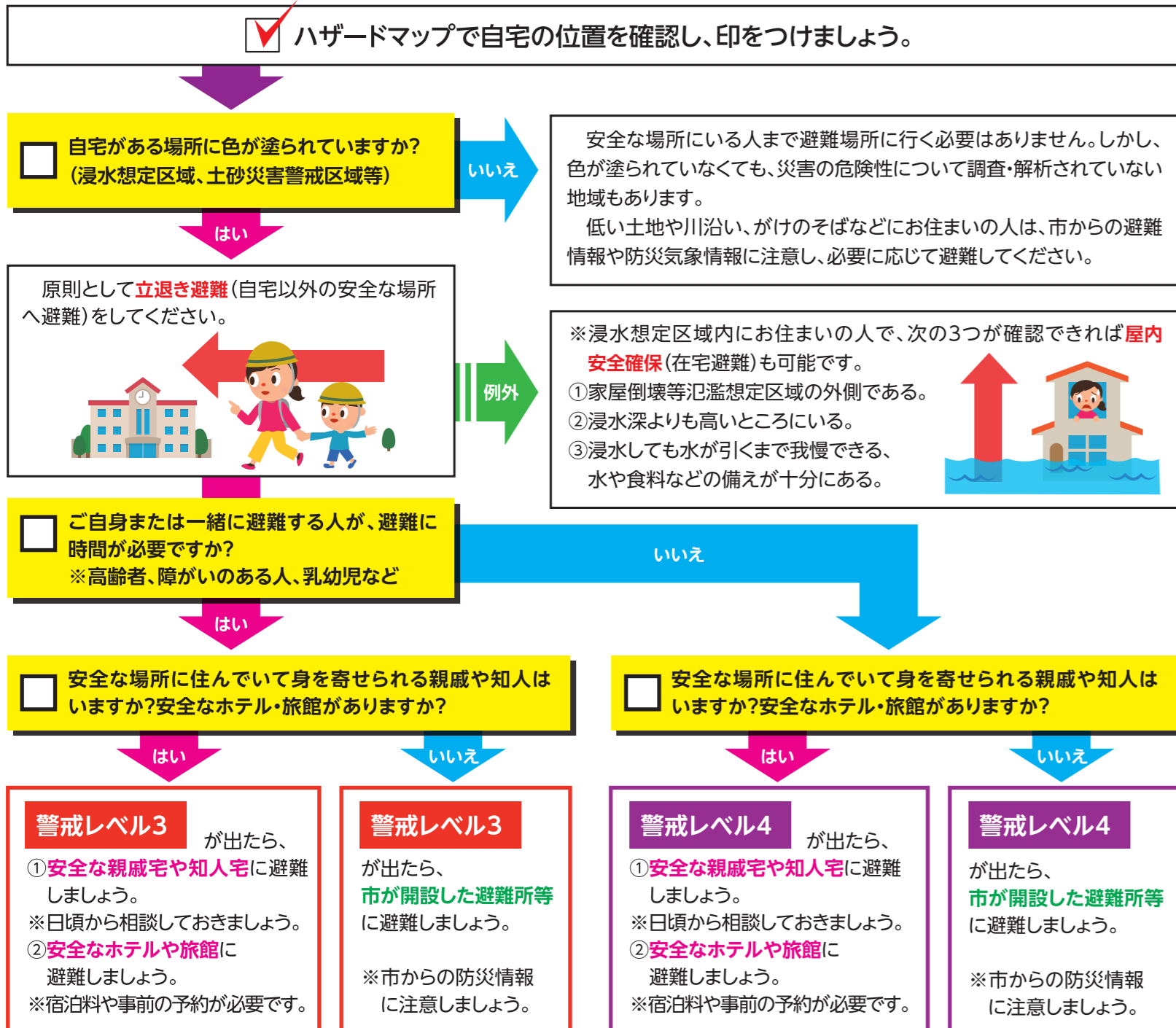
- 「避難しよう」と判断するのはあなた自身です。
避難することで助かるのは、「あなたの命」であることを強く認識してください。
- 実際に災害が発生せず、避難したことが「空振り」に終わったとしても、「被害がなくて幸運だった」と前向きに受け止めましょう。
- 過去の災害で大丈夫だったからといって安心はできません。過去より悪い方向に状況が進む場合があります。
- 夜間から明け方にかけて大雨や台風の接近が予想される場合は、明るい時間帯での避難を呼びかけます。
早めの避難行動を心がけてください。

早めの避難行動を心がけましょう。



5-1 大雨・台風時のとるべき避難行動

「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、自宅周辺の災害の危険性やとるべき避難行動を平常時に確認しておきましょう。



5-2 地震発生時のとるべき避難行動

地震発生

まずは自分の身を守る

- 机の下に入る。 ●家具やガラス面から離れる。
- クッションや雑誌などで頭を保護する。



緊急地震速報

震源に近い観測点で地震を察知し、直ちに震源や地震の規模(マグニチュード)などを推定し、大きな揺れが始まる数秒前から数十秒前にお知らせするシステムです。情報が出たら、身を守ることを第一に、どのような行動がとれるか、日頃から話し合っておきましょう。

緊急地震速報の流れ



こんなときは

- 路上にいる！
窓ガラスや瓦などの落下物からカバンなどで頭を保護し、空き地や公園などに避難する。
注意 ブロック塀、自動販売機などには近づかない。倒れそうな電柱、垂れ下がった電線に注意する。
- 車を運転している！
ハザードランプを点灯させ、徐々にスピードを落とし道路の左側に止めエンジンを切る。がけや橋などの危険な場所にいる場合は、早く脱出する。
注意 避難するときはキーは付けたまま、ドアロックもしない。貴重品を持ち出し、徒歩で避難する。
- エレベーターの中にいる！
すべての階のボタンを押して、停止した階で降りる。
注意 閉じ込められても無理に脱出しようとするせず、非常ボタンで外部と連絡をとり救出を待つ。
- 人が大勢いる施設では
むやみに移動すると混乱をまねくおそれがあるため、係員の指示に従い、落ち着いて行動。
- 山やがけ付近では
落石やがけ崩れに注意。

発生から1~2分

揺れがおさまったらまず火の始末

- 火元を確認する。 ●靴をはく。 ●家族の安全を確認する。
- 脱出口を確認する。



発生から3分

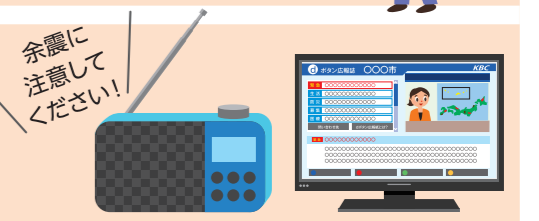
隣近所の安全確認・火災の発生を防ぐ

- 余震に注意する。 ●電気のスイッチは触らない。 ●火をつけない。
- 非常持出品を用意する。 ●隣近所に声をかける。
- 近所に火が出ていたら初期消火を行う。

発生から5分

正しい情報入手

- 正しい情報入手する(デマ情報にまどわされない)。
- 不要不急の電話は避け緊急連絡を優先する。 ●ブレーカーを落とす。
- エレベーターは使わない。 ●家屋倒壊などの危険があれば避難する。



発生から10分~

協力して消火・救出・救護活動

- 壊れた建物には入らない。
- 救助活動は一人ではなく複数で行う。

